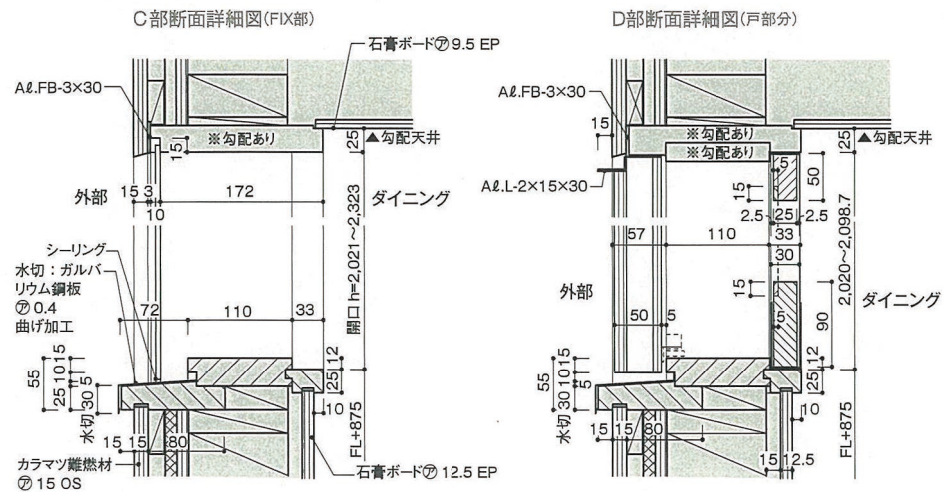


図4 | 開口部詳細図

[S=1:8]



平面詳細図

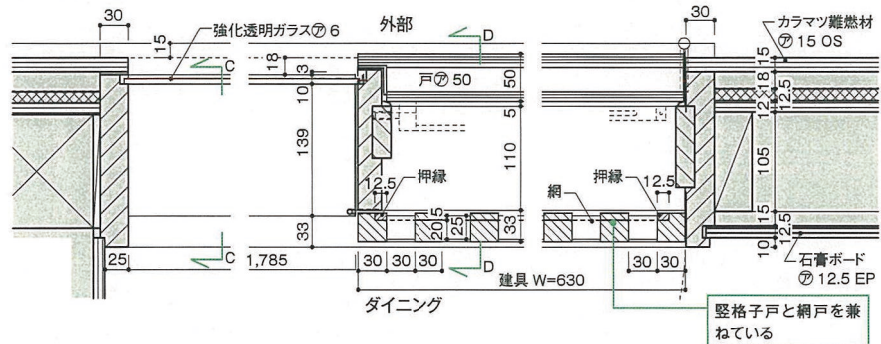
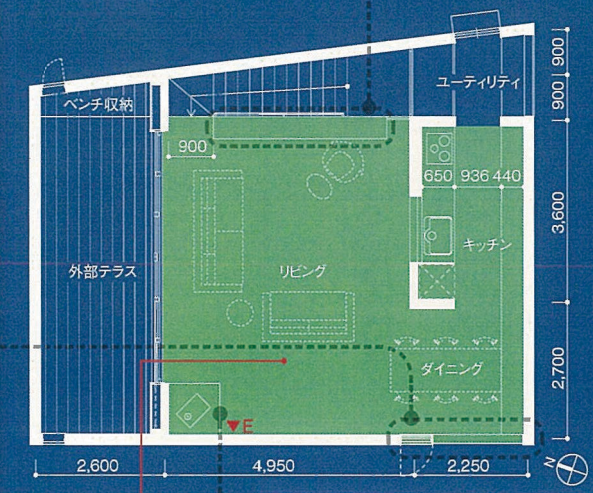


写真3 | ダイニング側を見る。ダイニングテーブルの高さは680mmと低く抑え、対比効果で天井を高く見せている

図1 | 2階平面図

[S=1:50]



フロア全体がLDKになっており、キッチン側は目隠しを兼ねた壁で区画している

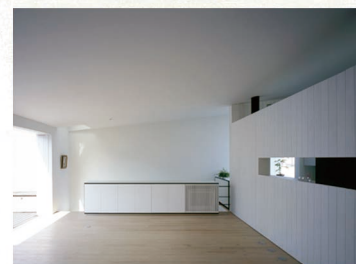


写真2 | 幅399mm、厚さ3mmの帯状の黒塗装スチール板が、部屋に広がり安定感を与えている

図5 | E面展開図

[S=1:100]

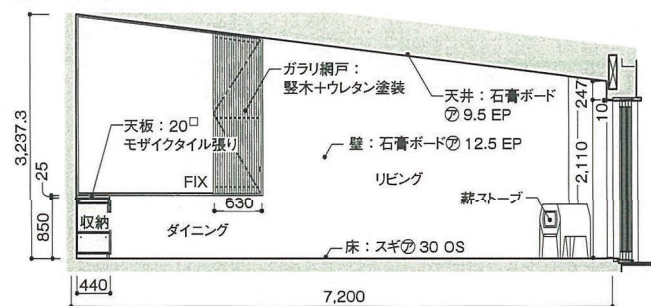
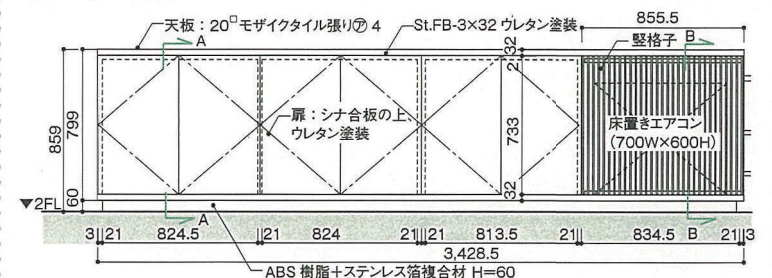


図2 | 収納立面図

[S=1:40]



縦格子詳細図

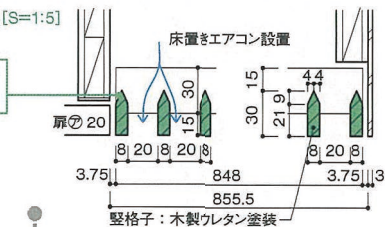
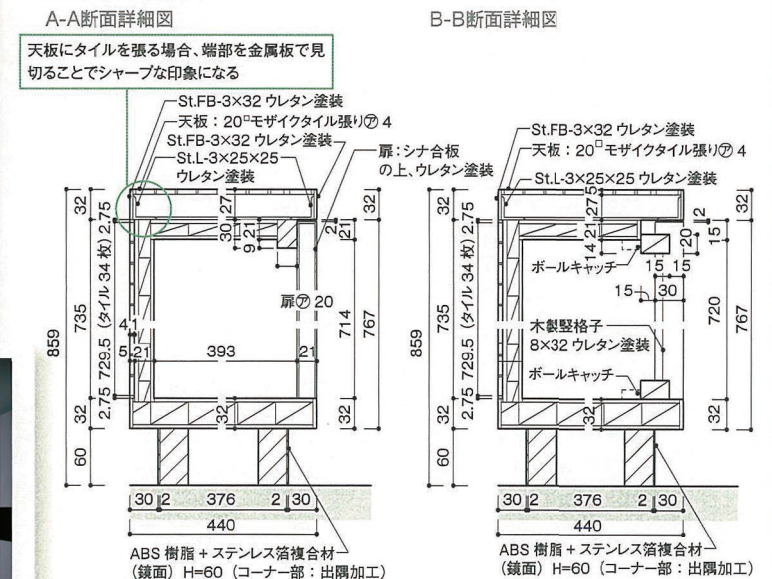


図3 | 収納断面詳細図

[S=1:8]



美術品が映える家具のつくり方

家具の仕上げは美術品とのバランスで

オブジェを飾る家具の仕上げは、そのオブジェの素材とのバランスで決めるべきである。この建物では計画時に、建築主からプロンズのオブジェを飾りたいと言われ、その台のあり方がデザイン上の重要なテーマとなった。当然のことながら美しく見せる配慮も必要で、ここでは絵画やオブジェを飾るため、部屋全体には背景として邪魔にならない白色を用いた「写真2」。

家具天板の仕上げには、プロンズの温もりと重量感に負けない素材として、手張りの感覚と硬い質感を併せ持つガラスモザイクを選択した「図2」。木やメラミン化粧板などではプロンズの重量感に負けるし、本磨き仕上げの御影石やガラスは冷たい印象になりすぎ、プロンズとのバランスが悪い。ガラスモザイクを家具などに張る場合、端部の処理が問題となる。小口まで張る方法もあるが、はがれやすいなど耐久性に難がある。ここでは黒塗装のスチールアンクル25×25mmと3mm厚の板で縁取った「図3」。この黒塗装の鉄は家具のほか壁面やストープにも用い、単調になりがちな空間を引き締めている。「天板久明」

「ふじみ野の家」設計：矢板建築設計研究所 | 写真：平井広行